

1. 文学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 4)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 4)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 文学部は従来5専攻 31専修体制であったが、メディアの高速化・グローバル化の著しい現代社会の多様な問題や現象について専門的知見を基礎として考察する必要があるとの認識から組織再編を進め、平成30年度に情報・史科学専修と二十世紀学専修を統合し、新たにメディア文化学専修を設置した。
- 文学部において独自に定めた卒業論文評価基準に基づく毎年の論文の評価結果を専修単位で検証し、検証結果を集約したものを教授会で報告し、問題意識や改善点を共有する、というPDCAサイクルを実現している。
- 分野横断教育とグローバルな文脈をふまえた地域（日本および東南アジア）横断的関心とを連結させた研究指向の講義群を英語で提供する目的で平成27年度に設置した英語講義群 Courses on Asian and Transcultural Studies を平成28年度以降毎年継続して提供している。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 毎年、卒業後3年を経過した学部卒業生を対象に、アンケートを実施している。平成28年度から令和元年度に実施したアンケートを集計した結果によれば、文学部で学べたことに満足しているかとの問いに対して90%以上の卒業生が「十分に」あるいは「それなりに」満足していると回答した。